

こども教育会議 会議録

日時	場所	出席	小松市長 浦郷教育長、 教育委員（諸石、古場、前田、河内、岡本、森、犬走、奥川、貝原） 中野企画財政部長、 溝上こども教育部長、諸岡こども教育部理事 教育政策課（牟田課長、樋渡係長） 企画課（古賀課長、松尾係長、松尾、富永）
平成27年9月24日（木） 13:30～14:30	武雄市役所（本庁） 4階会議室		
1. 協議件名		第6回こども教育会議 （教育大綱（案）について）	

議事録

内容

1 開会（進行：中野企画財政部長）

2 議事（議事進行：小松市長）

（1）意見交換 テーマ「教育大綱（案）について」

⇒冒頭に、企画課から、教育大綱を策定するにあたっての要旨を説明し、その後、出席者で意見交換を行った。

⇒本日の要旨説明、意見交換の内容を踏まえ、教育大綱の策定は市長に一任することで合意し、次回のこども教育会議において発表することとした。

<出席者からの主な意見>

- ・示された要旨の理念や指針には、これまでの会議での意見が反映されている。
- ・老若男女、市民が一目でわかるもの、分かりやすい表現でつくってほしい。
- ・あえて「教育」という字を使わずに、「すべての子どもを主人公に」というかたちでもいいのではないか。「教育」という言葉について、学校の先生以外は意外と抵抗を感じる人もいる。
- ・指針①の読み方は、「こきょうあい」よりも、一般的には、「きょうどあい」「ふるさとあい」の方が読みやすい。
- ・主な事業や取組例に、他にも事業の追加（※）が考えられるのではないかと。
※幼保小中連携推進、道徳教育の充実、特別支援教育の推進、外国語教育の推進、情報モラル教育の推進、母親・父親学級 等
- ・「組む」のイメージ図は名称の再考や連携機関の追加（※）など、工夫してさらにいいものを目指してほしい。
※ファミリーサポートセンター、武雄市図書館、武雄高校、医師会、相談支援センター、JA 等
- ・大綱の策定後は、それに基づき、具体的に事業を計画していくことになる。いかに具体的に実践していくかが大事である。
- ・教育大綱の基本理念、主な事業や取組例は「武雄市の教育」と整合性をとる必要がある。

<市長の発言>

- ・教育大綱は、1ページ程度のボリュームで、シンプルで市民になるべく分かりやすく、伝わるものになりたい。
- ・ラグビーの「one for all. all for one.」のように、私たちが子育てや教育を考えるときにはこのキーワードだと皆が共有できる形、市民の北極星になるようなものにしたい。

- ・各委員の意見を聞き、あえて「教育」という言葉を使わない方がいいと思った。
- ・教育大綱を策定した後は、その考え方は、今後、私たちの北極星であり、常に何かを考えていく上での根本の考え方になる。今後の施策は常にすべてそこに立ち戻って、市も教育委員会も考えていくという形にしたい。

(2) 次回開催について (予定)

- ・開催日 : 10月22日 (木) 時間は別途連絡
- ・テーマ : 教育大綱の発表

※当初予定していた「放課後の過ごし方」の意見交換は、11月に延期

3 その他

- ・なし

4 閉会 (進行: 中野企画財政部長)

武雄市教育大綱(案) 要旨

この大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定に基づき、策定するものです。
期間は平成27年度から平成30年度までの4年間とします。

基本理念

すべての子どもを教育の主人公に

指 針

- ①0歳からの故郷愛
- ②徹底的家庭応援
- ③21世紀型スキル

取 組

武雄市 × □□□(組む)

指針① 0歳からの故郷愛

すべての子どもたちに、ライフステージに応じた育ちと学びの機会と多様な選択肢を提供し、学ぶ楽しさを生涯にわたって実感できる武雄市をめざします。

こどもを中心に、地域の人々が有機的につながることで、地域のにぎわいを創出し、ぬくもりを感じるまちづくりを行います。

こども教育会議での意見

○連続した学び・ライフステージ

- ・0歳からそれぞれの段階(年齢)で連続的に育っていくかという視点が大事。
- ・まなびは生きがいの大きな柱。
- ・体験活動を通じて学ぶことが大事。

○地域

- ・地域のこどもは地域で育てよう。
- ・官民の民は「町民」の民。
- ・地域総ぐるみの持続可能なシステムが必要。

主な事業や取組例

- ・未就学児に対する教育の機会と選択肢の提供
- ・学校支援地域本部、コミュニティスクールの取り組み
- ・高校生の生涯学習

指針② 徹底的家庭応援

安心して子育てできる環境を構築し、こどもの笑顔が溢れる社会を実現します。

保護者の学びの機会を増やし、子育ての楽しさや喜びを実感できる社会づくりを進めます。

こども教育会議での意見

○家庭・子育て

- ・こどもの笑顔が見れる子育て、母親が家庭で輝ける存在、女性が輝ける街が望ましい。
- ・教育の土台は家庭、家庭連携を密にする必要がある。
- ・子育ての親を応援する社会づくりが大切である。
- ・子育てに対する不安を和らげる取り組みが必要ではないか。
- ・親が学ぶ機会「親塾」、「保護者塾」を開催したらどうか。

主な事業や取組例

- ・放課後児童クラブの時間延長
- ・病児保育の実施
- ・子育てセンター(仮称)の設置
- ・保護者向け学習会の開催

指針③ 21世紀型スキル

ICT利活用教育や花まる学習などさまざまな手法により、協働的問題解決能力など、これからの時代に必要なスキルを身に付け、新たな時代を生き抜く力を育成します。

こども教育会議での意見

○21世紀型教育、アクティブラーニング

- ・21世紀は創造していくことが求められる。
- ・知識をどう活用するかが大事になってくる。
- ・協働的問題解決能力の育成。

主な事業や取組例

- ・スマイル学習
- ・花まる学習
- ・プログラミング学習
- ・SSS(スーパー食育スクール)

既成概念にとらわれず、情報を共有し、地域、家庭、学校、企業、さまざまな機関が連携、チャレンジ、実践します。

公民館

家庭

企業

□□□

おひさま

スクラム

CCC

青年会議所

東洋大学

DeNA

放課後児童クラブ

コミュニティスクール

関西大学

放課後子ども教室

タニタ

幼稚園

夏休みこども教室

学校支援地域本部

塾

保育園

教育委員会

花まる学習会

武雄市

こどもクラブ

地域

学校